

2022年7月20日（水）

老球の細道679号

強くなるチーム、ならないチーム

会津バスケットボール協会 室井 富仁

バスケットボールにおいて全国高校総合体育大会、通称「インターハイ」が今月末、四国香川で開催される。福島県代表男子福島南高校は名将渡邊拓也コーチの下でどのような戦い方をするのか。また、女子は福島東陵高校が出場し、会津出身の選手たちがどのような活躍をするのか楽しみである。1回戦から自宅で観戦できる。ソフトバンクさんありがとう。

今年も初出場するチームはいくつかあるようであるが、多くは伝統校、強豪校と言われるチームが毎年出場を繰り返す。インターハイ常連校となかなか出場できない高校とでは何が違うのだろうか。同じ高校生なので体力や技術の差はそれほどないと思っている。よく言われるのは「意識の差」などの心理的な要因である。どのような差があるのだろうか。

全国大会ベスト8あるいは、それと同等の実力がある男子9チームと、県大会出場レベルの8チームの心理的適正を比較した先行研究がある。〈「バスケットボールの心理学」不昧堂〉。それによると、「困難の克服」「失敗不安」「緊張性不安」「精神的強靭さ」「対コーチ不適応」などの尺度は有意な差は見られなかったが、下記の尺度に有意な差が見られたという。

- * 目標への挑戦：自分で立てた目標や自己の限界に積極的に挑戦する。
- * 技術向上意欲：技能の向上を目指して積極的、持続的に努力を続ける。
- * 勝利指向性：勝つことに意義を見出す。
- * 冷静な判断：情緒が安定し、落ち着いて冷静な判断を下せる。
- * コーチ受容：コーチに対する信頼感があり、コーチの指示に従順である。
- * 闘志：大試合や不利な状況、競り合いの場面での闘志が強い。
- * 知的興味：競技やスポーツに関する知的な情報に関心が深い。
- * 不摂生：試合や練習を中心とする生活習慣がきちんとしている。
- * 練習意欲：練習が好きで、意欲的かつ持続的練習できる。
- * 競技価値観：自分が行っている競技が自分にとって価値あるものと考えている。
- * 計画性：試合の仕方や練習について、見通しを持って計画を立てられる。
- * 努力への因果帰属：試合での成功や技術の向上が、自分の努力の結果であると考えている。

また、シーズン初めは同等な実力でも、シーズンの終わりに伸びるチームと伸びないチームの心理的特徴を著わした先行研究〈上記〉もある。それによると、伸びるチームはシーズン初めの試合の反省で、自チームの「能力」「努力」が低いという認識があり、それに対して伸びないチームは、相手チームの競技能力に対して自チームの競技結果を判断していた。

勝敗の原因を外的要因に求めていると、その後の進歩はあまり望めない。反対に自チームの努力（内的要因）に求めていると「努力は嘘つかない」経験を味わえると考えられる。

今回上位大会への出場を逃した各チームは、次なる大会でアップセットを虎視眈々と狙っていることだろう。自チームにおける心理的要因を再度チェックしてみてもどうか。